

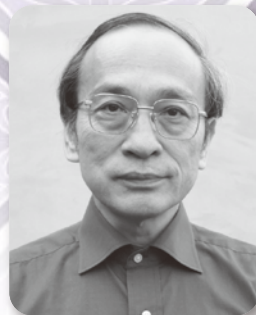
第1日 8月18日(土) ガイダンス 13:00 開講式 13:10

第1講 13:20~14:50

天平という時代

まつ お ひかる
松尾 光 (奈良県立万葉文化館名誉研究員・早稲田大学非常勤講師)

天平時代とは、たった20年ほどのことなのでしょうか。天平という年号を続けていることには、光明皇太后などのどんな思惑が秘められていたのでしょうか。そして天平時代には、何が国家の課題とされていたのでしょうか。万葉歌人たちはどんな時代に生きながら、華麗なる歌世界を演出し、謳歌していたのでしょうか。彼らが彼女らが眼前にしていたその天平時代社会の実相を、概括的ですが3つの視点から描き出したいと思います。



第2講 15:00~16:30

聖武の伊勢行幸と関宮について

た さか ひとし
田阪 仁 (元齋宮歴史博物館学芸課長)

家持が伊勢河口の関宮で詠んだという歌(巻6・1029)の題詞に「ひろつぐ みかどかたぶ廣嗣の謀反けむとしていくさたち發軍するに依りて」とあるため、天平十二年十月壬午に始まる伊勢国行幸を「廣嗣の乱を避けて」と説明する一般論が今も絶えない。かの行幸は予め周到に準備され、従って重要な目的があったことを明らかにすると共に、長らく不確かであった河口「関宮」について新たに有力候補地を提示する。



第2日 8月19日(日)

第3講 9:30~11:00

無辺際の夢 — 聖武天皇の生涯 —

なか にし すすむ
中西 進 (高志の国文学館館長)

固定観念を破るのはむずかしいが、やっとな聖武天皇が軟弱な天子だったという誤解がとけようとしているのではないだろうか。人はいう。文字が弱々しいと。そうではない。これは高度に学習された字だ。光明子の天衣無縫な字とは、まるで違う。多都構想も凡庸の目には、見えにくいのだろう。囚人の声に耳を傾けない人が王たりえるだろうか。大凡は拙著に書いたことだが、くり返し同じことを言いたい思いは、強い。



第4講 11:10~12:40

正倉院宝物にみる聖武天皇の時代

すぎもと かず き
杉本 一樹 (宮内庁正倉院事務所長)

正倉院宝物の成立とその内容について概要を解説し、多数の宝物のなかから幾つかを選んで紹介しながら講義を進める。これまで聖武天皇と光明皇后の一体性が正倉院宝物を考える上での基本的視点とされてきた。大筋でこれは正しいが、聖武天皇を基準点とした宝物観と光明皇后基準の宝物観、2つの視点を留意し、複眼視することによって、この「時代」の特質が、いっそう立体的に見えてこないだろうか。



第5講 13:30~15:00

聖武天皇と家持

はり はら たか ゆき
針原 孝之 (二松学舎大学名誉教授)

聖武天皇は難波宮の再興・たに恭仁宮・しからぎ柴香楽宮の都城を造営することに力を注いだ。また天皇は仏教に深い造詣をもち大仏造立に努力された。大仏鑄造完成を目前にして大仏に塗る黄金が不足していた時、陸奥国小田郡から黄金が出た。家持は「陸奥国より金を出せる詔書を賀く歌」(巻17・4094)を詠んだ。この歌には家持の伴造意識が表現されており、大伴氏の伝統の中に生きてまた誇りが歌われている。天皇に対する忠誠心を述べてみたい。



◆歴史館の最新情報、日々の出来事はこちら！

- 公式ホームページ <http://www.manreki.com>
- 高岡万歴日記(公式ブログ) <http://www.manreki.com/blog/>
- ツイッター 家持くん @manreki いけぬし君 @ikenushi おおいらつめちゃん @oiratsume
- 万葉人・高岡市万葉歴史館館長 @akahitomusimaro
- 坂本信幸万葉日記(ブログ) <http://www.manreki.com/kancho/>